

JAPAN MOBILITY SHOW 2023における「サステナブルイベントスタジオ」実施報告

サステナブルイベント協議会 幹事
大高 良和[△]

一般社団法人 日本電機工業会 (JEMA) 展博委員会が参加している展示会関連団体連絡会*の定例会合(2024年2月16日開催)において、サステナブルイベント協議会から「サステナブルイベントスタジオ」の実施報告があったので、その概要をご紹介する。

これは、2023年10~11月に開催した「JAPAN MOBILITY SHOW 2023」(旧・東京モーターショー)の“Out of KidZania”において、イベント制作会社5社による同協議会がその運営の主体となり、子供たちに対してサステナブルな展示手法を考え、模型制作を通じて実践してもらうという企画である。

なお、本稿は、事務局が書き起こした報告内容を基にスピーカーが加筆し、ご寄稿いただいたものである。

*経済産業省、独立行政法人 日本貿易振興機構（ジェトロ）、一般社団法人 日本展示会協会、一般社団法人 日本イベント産業振興協会 (JACE)、JEMA 展博委員会の5機関にて構成

1. サステナブルイベント協議会とは

一般社団法人 日本イベント産業振興協会 (JACE) の会員会社5社^(注1)は、2023年1月、サステナブルイベント協議会を発足させた。

国連が掲げるSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向け、あらゆる企業がサステナビリティへの貢献を期待されている中で、イベント業界においても建材や装飾材等の廃棄量削減、搬入・輸送時等に発生するCO₂排出量削減、多様性に配慮した運営など、全てのイベント関係者にサステナビリティの視点が求められている。

こうした状況を踏まえ、同協議会は、サステナブルイベントの価値を主体的・継続的に発信し、業界全体のサステナビリティ促進・リテラシー向上を実現すること目的に発足したのである。

なお、協議会各社は、この活動を通じて、サステナブルイベント制作の知見を獲得するとともに、同活動をコ

ンテンツ化し、SDGs意識の高い各社若手社員のモティベーションアップ・ブランディング・リクルーティング等に活用している。

(注1) 株式会社 丹青社、株式会社 電通ライブ、株式会社 乃村工藝社、株式会社 博報堂プロダクツ、株式会社 ムラヤマ

2. JMS 出展の目的

協議会活動の第1弾として、一般社団法人 日本自動車工業会やKidZania^(注2)の協力の下、2023年11月に開催されたJAPAN MOBILITY SHOW (JMS) 2023の“Out of KidZania”に出展することとなった^(注3)。

(注2) 楽しみながら社会のしくみを学ぶことができるお仕事体験施設。体験できる仕事やサービスは、約100種類！本格的な設備や道具を使って、子どもたちは大人のようにいろいろな仕事やサービスを体験することができる。

(注3) https://www.japan-mobility-show.com/organizer_program/out_of_kidzania/

KidZania（以下、キッザニア）というお仕事体験ブースを出展した理由は、JMSに遊びにきた子どもたちに向けて、イベントづくりの裏方でサステナビリティ配慮の取組みを紹介するとともに、JMSという華やかなショーケースをきっかけに、その裏側を支えるイベント業の仕事自体と、サステナブルな素材・取組みに興味をもってもらうことである。サステナビリティの意識が根付いた世代になじむ伝え方で、「イベントデザイナー」という職業を含めたイベント業界の存在感を訴求することができたと考えている。

なお、JMS会場ブースではなく、キッザニアエリアで展開することにより、隣接する広告主ブースからの注目を効率的に集めることとなった。



図1 サステナブルイベント協議会ブース 小間割図での位置表示（左）とブースレイアウト（右）



図2 サステナブルイベント協議会ブース（外観）

3. 「サステナブルイベントスタジオ」の特徴

キッザニアのエントランス近くでブース（3小間）を設置、キッザニアを訪れる全ての来場者が最初に目にする好立地で展開した（図1）（図2）。

このブースにはJMSブースの壁面を作るための「壁面」「床材」「ステージ」「装飾物」を用意（図3）。子どもたちが作る模型ブースの中心に据えるミニカー以外の装飾部分は、リース建材である「オクタノルム」、使用済みの洋服をリサイクルした「カラーループ」等で構成。サステナブルの趣旨に沿って、建材は全てリサイクル、リユース品等を使用した。

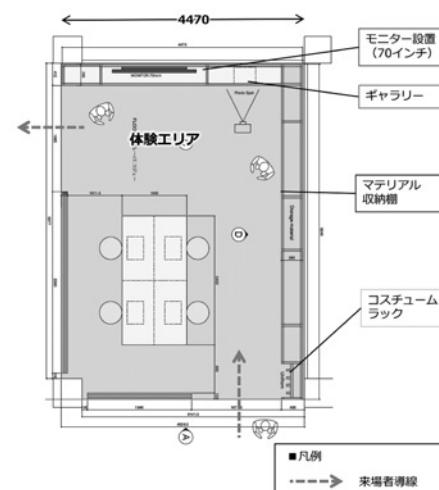


図3 ブース模型を作るための素材たち

また、ブースの壁面には、「サステナブルイベント協議会」「サステナブルイベントスタジオ」のパネルを設置。来場者には、協議会活動の趣旨を訴求。協議会の思いを来場者にご覧いただけけるよう工夫した（図4）。

協議会メンバー5社の社員は当初、何をどのように企画し実施するかについて悩んでいたが、このブース企画に積極的に参画したことにより、サステナブルイベントとは何かについて考えるきっかけとなったという効果を生み出した。

協議会の設置からこのイベントに至るまでの経緯等については、本日(2月16日)、電通ライブのウェブサイトに5社のインタビューを掲載したので、ご参照願いたい。
<https://www.dentsulive.co.jp/column/20240216>

4. 体験プログラム

サステナブルイベントスタジオへの来場者は合計312名。予約枠ほぼ一杯の人気ぶりであった。そして、子どもたちは皆、楽しんでいたのが印象的であった。協議会メンバー5社の社員83人が「先輩デザイナー」としてサポートした（図5）。

(1) オープニング

イベントデザイナーが留意するサステナブルな視点を、子どもたちにブリーフィング。

(2) クライアントからのオリエンテーション

通常の業務と同様、クライアントである広告主からのオリエンをきっかけに作業がスタート。



図4 サステナブルイベント協議会の趣旨を訴求

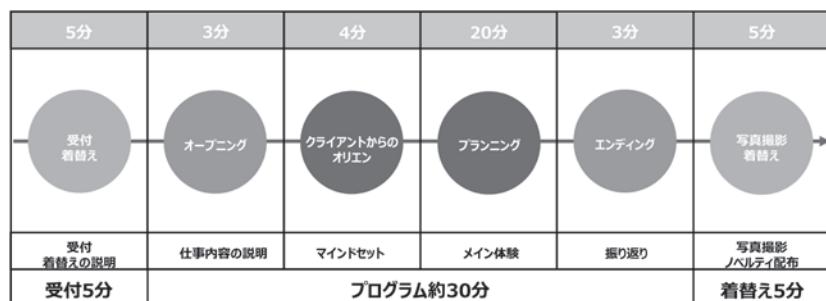


図5 体験プログラムの概要 プログラム時間30分とインターバル10分の合計40分

(3) 模型制作

通常のデザイナーの作業プロセスと同様に、まず車両を選択。その車両をスタイリングするように、床材、壁面、ステージ、装飾をサステナブルな素材から選定し、模型を制作。

(4) 振り返り

模型完成後、子どもたちは自分が作った模型を他の子どもたちにプレゼンし、その後、先輩デザイナー役の協議会社員が講評。サステナブル素材について解説された見開きのチラシに、自分の名刺（肩書き：イベントデザイナー）、模型の写真を添付し、プレゼントした。

5. 新たなチャレンジに向けて

今回の経験を踏まえて、2024年度は、大人（出展企業や主催企業の宣伝・企画担当）向けに、サステナブルイベントに取り組む価値があることを理解・体感できることを目的としたワークショップを開催することを計画している。協議会メンバー5社は、ファシリテータとして参画する予定である（図6）。

引き続き、協議会メンバーが社会課題の解決にチャレンジしていくことにより、協議会自体の認知度を高め、ひいてはイベント業界の変革にもつながると考える。国内外の有識者とも連携を取りながらサステナブルイベントを発展させていきたい。

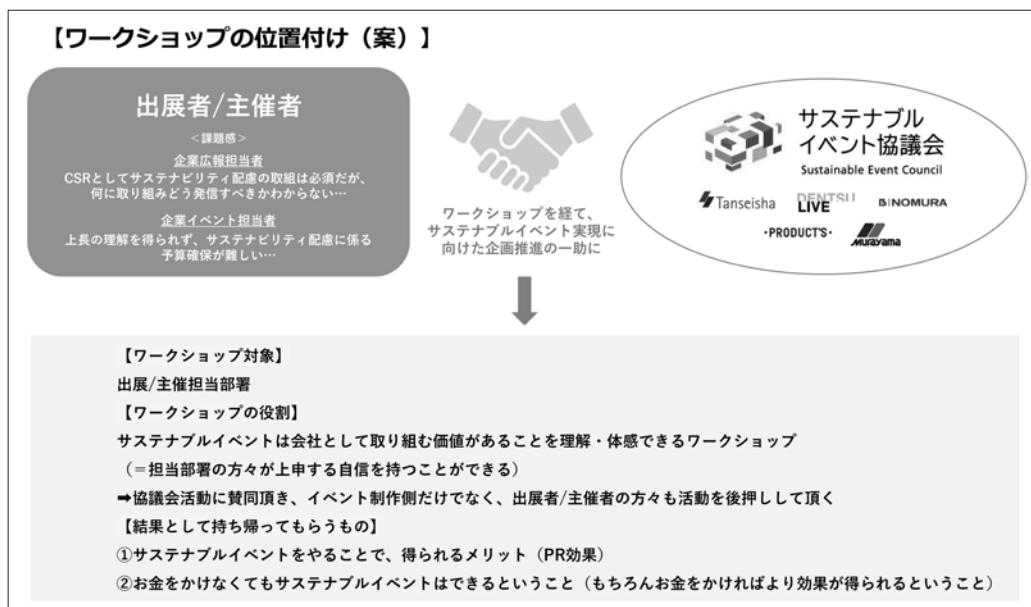


図6 新たなワークショップ体験